

第11回

酸化ストレス・抗酸化セミナー



～酸化ストレス評価法・Carratelli Panel(d-ROMs、BAPテスト等)の人と動物への日常的臨床応用～

会場 東京都中央区日本橋室町2丁目4-3 日本橋室町野村ビル6F
「野村コンファレンスプラザ日本橋」6F大ホール

日時 2013年7月21日(日) 12:30～17:00(受付 11:45～)

参加費 一般¥10,000 ユーザー¥5,000※通訳付

定員 150名(定員になり次第締め切らせて頂きます)

懇親会 参加費:5,000円 場所:同ビルB1「タバーン」 時間:17:30～19:00

主催 ウィスマー研究所／株式会社ウィスマー

後援 株式会社ディアクロン・ジャパン

2003年より毎年開催して参りました本セミナーは、今年で第11回目を迎えて頂く運びとなりました。過去延べ100名の先生方に講演を務めていただき、2200名以上の先生方にご参加いただきました。CARRATELLI Panelと称されるd-ROMs・BAPテストは、今や世界40か国の研究・臨床の場で活用され、酸化ストレス総合評価の世界基準となりつつあります。国内では800以上の施設で活用され、お隣の韓国では、受託検査機関や検診センターでの導入が積極的に進められております。

第11回目を迎え、本テーマは新たな段階へと進んでいます。過去10年で酸化ストレス総合評価の基礎的研究が広く多くの施設で行われ、酸化ストレス上昇の原因・抗酸化力低下の原因・メカニズムなどが明らかになって参りました。それらの研究成果を踏まえ、いよいよこれから、日々の臨床現場にどのように生かしていくかという、具体的なアプリケーションが求められるようになって参りました。また、近年は獣医学の分野でも研究が急速に進んでおります。

そこで、今回の第11回酸化ストレス・抗酸化セミナーのテーマは「酸化ストレス評価法・Carratelli Panel(d-ROMs、BAPテスト等)の人と動物への日常的臨床応用」です。

酸化ストレス測定は「何故必要なのか?」「誰が測定対象か?」「どのように結果を解釈するのか?」などをより深くご理解いただけることと存じます。

国内からは各分野のエキスパートの10名の先生方に、生活習慣病、肝疾患、循環器、過脂化、スポーツ・疲労、プラセンタ療法、温熱療法、そして獣医学、予防歯科と様々な角度から、最新情報をご講演いただきます。

特別講演としては、第1回セミナーからご講演いただいております国際酸化ストレス研究機構(イタリア)会長・ローマ大学教授のIORIO先生に臨床応用の具体策を、そして初来日のイタリア国立健康研究所のBrambilla先生には獣医学の分野で酸化ストレス研究の第一人者として、動物の健康管理や食肉の安全性評価についてご講演を頂きます。

万障お繰り合わせの上、ご来席賜りますようお願い申し上げます。

株式会社ウィスマー 代表取締役
関 泰一



酸化ストレス・抗酸化セミナー 講師&演題 順不同

特別講演1

国際酸化ストレス研究機構 会長
ローマ大学医学部 教授

Eugenio Luigi Iorio 先生

演題 ● 酸化ストレス評価法・Carratelli Panel
(d-ROMs、BAPテスト等)の意義と日常的臨床応用



特別講演2

イタリア国立健康研究所 環境・健康・毒素化学研究室(ローマ) 室長

Gianfranco Brambilla 先生

演題 ● 獣医学における酸化ストレス評価:動物の健康、動物福祉、
そして食品安全性へのヒント



講演1

独立行政法人 国立国際医療研究センター
肝炎・免疫研究センター 肝疾患研究室長

是永 匡紹 先生

演題 ● C型肝炎ウイルス(HCV)が誘導する酸化ストレスと肝発癌



講演6

福島大学人間発達文化学類 教授
福島大学陸上競技部 監督

川本 和久 先生

演題 ● スポーツトレーニングにおける酸化ストレス



講演2

獨協医科大学 心臓・血管内科 准教授
獨協医科大学 再生医療センター 副センター長

田口 功 先生

演題 ● ハイリスク高血圧患者における
イルベサルタン抗酸化作用



講演7

関西福祉科学大学 健康福祉学部 教授
大阪市立大学 医学部 客員教授
東京大学大学院 農学生命科学研究科 特任教授

倉恒 弘彦 先生

演題 ● 東日本大震災後の疲労と酸化ストレス



講演3

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科予防歯科学分野 講師、博士(歯学)

友藤 孝明 先生

演題 ● 歯周病患者における酸化ストレス測定の意義



講演8

三井記念病院総合健診センター 特任顧問
昭和大学医学部衛生学 客員教授

山門 實 先生

演題 ● 唾液中一酸化窒素(NO)測定の臨床的有用性



講演4

自治医科大学 臨床検査医学
Touro大学 酸化・糖化疾患研究部 客員教授
国立病院機構京都医療センター 予防医学研究室 客員室長

小谷 和彦 先生

演題 ● 脂質診療における酸化ストレス測定の意義



講演9

ふるたクリニック 院長
北里大学外科学 非常勤講師

古田 一徳 先生

演題 ● プラセンタ療法におけるd-ROMs、BAPの変化



講演5

東京大学大学院農学生命科学研究科附属食の安全研究センター 特任教授
東京大学 名誉教授

局 博一 先生

演題 ● サラブレッドのd-ROMs・BAP値
ならびにトレッドミル運動負荷ストレスによる変化



講演10

(財)国際全人医療研究所 理事長
WHO(世界保健機関) 心身医学・精神薬理学 教授

永田 勝太郎 先生

演題 ● 温熱療法と酸化バランス防御系





プログラム 予定

開会

関 泰一

ウイスマー研究所／株式会社ウイスマー
代表取締役 社長 主催者挨拶

講演1 是永 匡紹 先生

演題●C型肝炎ウイルス(HCV)が誘導する酸化ストレスと肝臓癌
本邦では、年間約3万人が肝臓癌で死亡するが、その約70%がC型肝炎ウイルス(HCV)に感染している。肝臓癌の一機序としてHCVは、ミトコンドリア障害を惹起し、酸化ストレスを上昇させており、その評価法としてのd-ROMs, BAPテストの有用性を基礎・臨床研究より紹介する。

講演2 田口 功 先生

演題●ハイリスク高血圧患者におけるイルベサルタンの酸化作用
アンジオテンシンII受容体拮抗薬であるイルベサルタンはPPAR-γ活性化作用を有し、糖・脂質代謝改善効果を示すとされている。加えて、心血管イベントの主要な原因のひとつである酸化ストレスに対する抑制効果の基礎的報告もみられる。イルベサルタンの抗酸化作用をd-ROMs testを用いて臨床的に検討したので報告する。



【特別講演1】

Eugenio Luigi Iorio 先生

演題●酸化ストレス評価法・Carratelli Panel (d-ROMs, BAPテスト等)の意義と日常的臨床応用
過去20年間にわたりd-ROMs, BAPテストは多くの研究者により基礎研究が行われ、酸化ストレス総合評価の世界的標準となりつつある。酸化ストレス評価を日々の臨床に応用することで医師・患者の両者は大きなメリットを得る。臨床応用に必要な情報を世界の最新研究から報告する。

講演3 友藤 孝明 先生

演題●歯周病患者における酸化ストレス測定の意義
歯周病は、もっとも広く蔓延している炎症性疾患の一つである。本講演では、歯周病患者におけるd-ROMsテストの測定の意義を紹介する。

講演4 小谷 和彦 先生

演題●脂質診療における酸化ストレス測定の意義
脂質異常症の診療において測定している酸化ストレスマーカーの意義に関するデータについて提示したい。

講演5 局 博一 先生

演題●サラブレッドのd-ROMs, BAP値ならびにトレッドミル運動負荷ストレスによる変化
サラブレッドは動物界を代表するアスリートであり、卓越した運動能力を備えている。馬用のトレッドミルを用いて激運動を行ったときのd-ROMsおよびBAPの変化、ならびに多数(33頭)のサラブレッドの非運動負荷時のd-ROMsおよびBAPの値を求めた。



【特別講演2】

Gianfranco Brambilla 先生

演題●獣医学における酸化ストレス評価・動物の健康、動物福祉、そして食品安全性へのヒント
カラテッリパネルによる酸化ストレス評価法は、動物の健康状態を有効にモニターすると、イタリア政府が承認している測定法である。その応用範囲は広く、ペットを初めとして、家畜、鳥類、爬虫類、魚にまで及んでいる。食品安全性の視点からも酸化ストレス評価は重要な役割を持つ。当研究施設での最新研究を報告する。

講演6 川本 和久 先生

演題●スポーツトレーニングにおける酸化ストレス
スポーツトレーニングにおけるd-ROMsテストの活用例について、さまざまな運動強度から考察を進める。また、ロンドン五輪400mハードル競技者のBAPテストを活用したコンディショニングについて紹介する。

講演7 倉恒 弘彦 先生

演題●東日本大震災後の疲労と酸化ストレス
本講演では、宮城大学看護学部が実施した東日本大震災対応・緊急研究開発成果実装支援プログラム(代表研究者:吉田俊子)の中で明らかにあった疲労と酸化ストレス、自律神経系機能との関連について紹介する。

講演8 山門 實 先生

演題●唾液中一酸化窒素(NO)測定の臨床的有用性
生活習慣病の基本病態は動脈硬化であるが、その初期病変は一酸化窒素(NO)による血管内皮機能障害である。ごく最近、唾液中のNO測定が可能となったことから、本講演ではその臨床的有用性について報告する。

講演9 古田 一徳 先生

演題●プラセンタ療法におけるd-ROMs, BAPの変化
プラセンタ療法において、療法開始前と数ヶ月経過したのちに、d-ROMs, BAPの変化を測定。プラセンタ療法が酸化ストレスにおよぼす影響とその有用性を検討しました。

講演10 永田 勝太郎 先生

演題●温熱療法と酸化バランス防御系
多くの薬剤が酸化バランス防御系に影響を与えていることはさまざまな研究で明らかになってきた。物理療法である温熱療法はどうであろうか。温熱療法などの温熱の生体に与える効果について、酸化バランス防御系の視点から検討した。修正BAP/d-ROM値を改善させた。



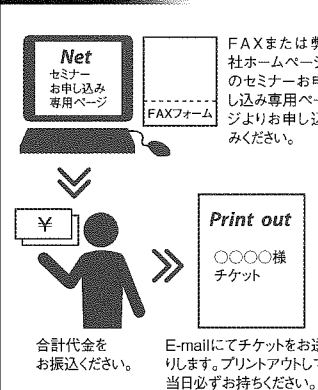
閉会

Filippo Carratelli

DIACRON INTERNATIONAL社(イタリア)
専務取締役 製品開発部長

- 日時／2013年7月21日(日)12:30～17:00(受付11:45～)
- 会場／東京都中央区日本橋室町2丁目4-3 日本橋室町野村ビル6F
「野村コンファレンスプラザ日本橋」6F大ホール
- セミナー参加費／一般¥10,000 ユーザー¥5,000※通訳付
- 定員／150名(定員になり次第締め切らせて頂きます)
- 懇親会／参加費:5,000円 場所:同ビルB1「タバーン」
時間:17:30～19:00
- お申し込み方法／FAXまたはホームページよりお申し込み下さい。
1回で1名様のお申し込みとなります。複数ご希望の方はお手数ですが、人数分のお申し込みをお願いいたします。お申し込み後参加費を2013年7月12日(金)までにお振込み下さい。お振込み確認後チケットをE-mailにてお送りいたします。プリントアウトして当日必ずお持ち下さい。
- お申し込み期限／2013年7月12日(金)数に限りがございますので、お早めにお申し込み下さい。
- お振込先／三菱東京UFJ銀行 神田駅前支店普通口座
1628237 株式会社ウイスマー
- お問い合わせ／TEL.03-5802-7333 E-mail info@wismerll.co.jp

お申し込みの流れ



アクセスマップ



FAXでお申し込みの方はこちらのFAXフォームをご利用ください。

■下記のいずれかにチェックを入れてください。

- 第11回酸化ストレス・抗酸化セミナーに参加します。 < ☐ ウイスマー製品ユーザー ☐ ノンユーザー >
- 懇親会に < ☐ 参加します ☐ しません >

ふりがな 御名前	E-mail @ ※チケットをE-mailにて発券いたします。必ずご記入ください。
御住所 <〒 - >	御組織名
TEL. FAX.	役職名
お振込名義	お振込予定日
※お申し込み氏名とお振込名が異なる場合、必ずご記入ください。	
備考	月 日